

平成 31 年 2 月 18 日

医療社会事業課

第 229 回みなとセミナー

住み慣れた地域で暮らすために介護・医療関係者が知っておきたい療養先のポイント
～より良い在宅療養支援をめざして part12～報告

平成 31 年 2 月 6 日（水）みなとセミナーを開催致しました。

司会進行 MSW 亀山主任



開会の挨拶 竹本医療連携副センター長



座長 曾我看護副部長



講師 服部退院支援看護係長



参加者は院外から 17 名、院内から 44 名

講義内容は「知っておきたい療養先のポイント」について、介護保険制度、病院の種類、施設の種類を分かりやすく講義して頂き、知識の再確認や退院支援にさらに興味をもって頂くことができました。

グループワーク・発表の様子



講義で得た知識をもとに、入院によってADLが低下した事例に患者・家族の思いを【患者：自宅に帰りたい 家族：介護が不安】【患者：家族に迷惑をかけたくないから施設に行きたい】【家族：もう少し動けるようになって欲しい】【家族：病院から家は無理と言われました】の4パターンを設定し、その人らしい療養先をどう提案し意思決定支援するのか、それぞれの立場から意見交換を行いました。グループメンバーは病棟看護師、ケアマネージャー、訪問看護師が主で、日々何を大事にしながら関わっているのか知る良い機会となりました。

閉会の挨拶 持松医療連携センター長



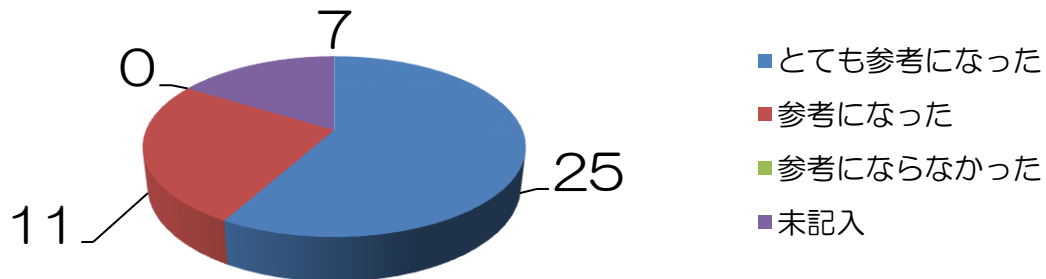
2019年2月6日開催

第229回みなとセミナー
～より良い在宅療養支援をめざして part12～
アンケート結果

講演参加者：計名

回収率：（43名）

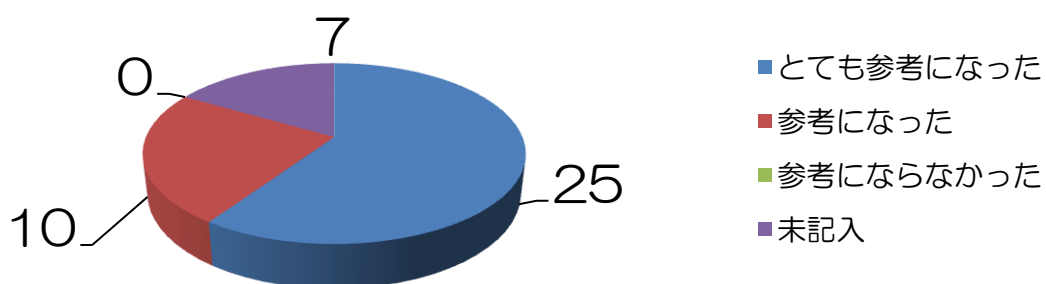
① 講義『知っておきたい療養先のポイント』はいかがでしたか？



- ・療養先の選択肢や条件の詳細を知ることができ、参考になりました。（8名）
- ・費用や医療保険・介護保険の違い等が再確認できました。
- ・介護と医療制度についてポイントをわかりやすく説明していただきよかったです。
- ・介護制度についてたくさんの医療関係者に知ってほしいと思いました。私も医療制度について勉強したいと元気が出ました。
- ・特に病院の分類について説明が聞けたことが良かったです。
- ・何回聞いても覚えにくいですが、今回はわかりやすくて良かったです。
- ・相談室だけでなく看護師にも必要な知識であり、退院支援を進めるにあたって活用できる内容であったと思う。（2名）
- ・さらに学びたい分野であると感じました。
- ・療養先についてとてもわかりやすく理解できました。病棟スタッフにも是非伝えていきたいです。
- ・医療に対する知識が増えました。
- ・講義で良く理解することができました。
- ・今まで詳細がわからなかった部分が理解できました。（2名）
- ・今回のような講義の内容を聞く機会がなかったため、よかったです。（2名）
- ・施設など療養先について患者・家族へ説明する上で、必要な情報を知る事ができました。
- ・今まで相談室が決めた療養先を知っていただけでした。患者の病態や治療状況をしっかり考えて、自分でもどのような療養先があるのか考えていきたいと思いました。
- ・何となく理解していた社会保障の知識を落とし込めたので、とても勉強になりました。

- 病院と療養施設の違いがよくわかりました。
- 回復期リハビリテーション病院の対象疾患を理解できました。
- 何となく知っていたつもりであったが、知らない部分も多かった。専門家である相談室の方が介入して情報提供してもらう大切さを感じた。
- それぞれの特徴がわかりました。
- 具体的でよかったです。
- リハビリの単位数は全く知りませんでした。
- 療養先の違いが分かり、目標設定するときの参考になった。

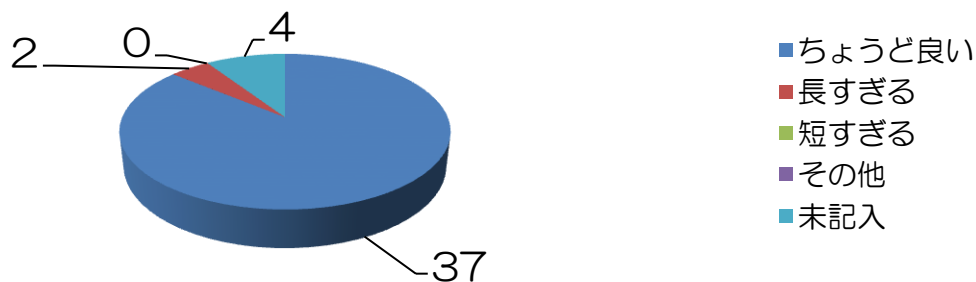
② グループワーク『事例を通してその人らしい療養先を考えよう』はいかがでしたか？



- 病院の医療スタッフとのグループワークはとても良い体験でした。介護の実状や医療の実状の情報交換の場として有効だと思います。
- 医療者と介護者の認識についてギャップを感じる面もありました。
- 様々な職種からの意見が聞けて良かったです。(8名)
- 病棟でのみ働いてはわからないことを知れました。
- 地域で働いている方と話し合うことができ、色々な情報を知れたので勉強になりました。(8名)
- 退院連携するのにとても参考になりました。
- 以前に比べ、病院の看護師さん達が在宅についての知識や理解が深まっているように感じました。元気が出ました。
- 病棟の看護師さん達と接する機会が少ないため、ケアマネと看護師さんが同じテーブルで同じ事例を使って話し合い考えていくことは非常に貴重な機会でした。(3名)
- 楽しかったです。
- その人らしさを考える事を病棟看護師と在宅看護師で共に考えることができました。
- よくあるケース内容でとても勉強になりました。(3名)
- 院内外の多職種の意見やアセスメントの仕方に刺激を受けました。
- 入退院支援センターで現在患者さんと関わっており、入院後のADL低下を含めてアセスメントし相談室へ繋いでいます。とても参考になりました。
- 他病棟の看護師、ケアマネの知識をたくさん分けてもらい勉強になりました。
- 実際にケアマネさん等の生の意見を聞く事ができてよかったです。色々な小技も聞く事ができ、勉強になりました。(2名)

- 在宅で活躍している方の声が聞けてとても参考になったし、在宅をすすめても大丈夫だと思えた。
- 病棟スタッフの意見が大変参考になりました。
- 様々な療養先が知れてよかったです。
- 患者や家族の意向に沿う事、病棟看護師だから知っていることを多職種で考えられました。
- どのグループも遠方の53歳の息子をあてにしていなかったのが、現実を反映しているなと思いました。
- 自分にはない視点もてた。
- 多職種の意見を聞く事で、居宅サービスの概要を知ることができた。これまでの退院前カンファレンスの意味づけに役立てた。

③ 本会の時間配分はいかがでしたか？



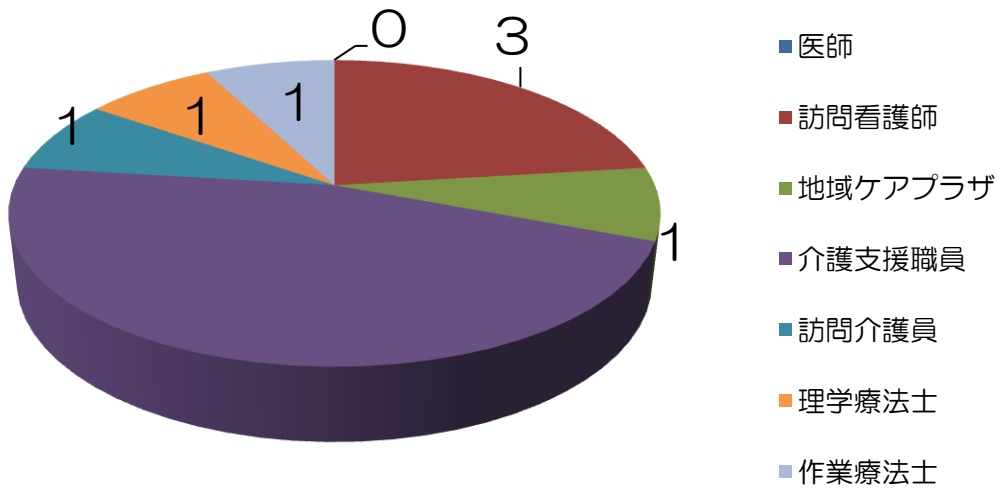
④ 次回以降の「より良い在宅療養支援をめざして」の会で、お聞きになりたいテーマ、会への要望などはございますか？

- これまでの支援で困難であったが成功した事例を聞きたいです。
- 今回のようにグループワークがあると良いです。
- 退院前カンファレンスの上手な進め方。
- 在宅看取りについて。
- 実際のケースを知りたいです。
- またグループワーク（院外の人と）やりたいです。
- 地域の方の声を聞きたい
- 在宅医との連携、家族に課題がある場合の支援等（事例検討）
- 地域での症例（困難）についての発表が聞けるといいと思った。
- 外来で化学療法をしている方のケアについて。
- できれば病棟の繁忙期は外してほしい。

⑤ 所属と職種

未記入 0名

<院外>



<院内>

